

# せきじりの

富津市立環小学校

学校便り No.13

平成30年11月13日

mail tamaki@futtu.ed.jp

URL <http://www.futtu.jp/syo-tamaki/>

11月になり、平成時代が残り半年となりました。読売中高生新聞は、全国の中高生約2万1000人を対象に、「平成後」の時代に大切にしたい価値観を尋ねるアンケートを実施しました。この調査によると、1位は「平和」で全体の41%を占めたそうです。2位は「安全」、3位は「安心」と穏やかな暮らしを望む傾向がうかがえました。さらに、平成後の時代で注目する社会課題について尋ねたところ、「**少子高齢化への対応**」が最多の42%を占め、2位には「**環境問題への対応**」が入ったそうです。安定的な社会を求めつつも、社会の「持続可能性」に危機感を持っている若者たちの姿が浮かび上がりました。学校教育においても、社会の変化や社会的課題に対応していくための「生きる力」を育てていく教育を今後も進めていかなければならないと考えています。

## 感動の小中合唱祭・峰促同盟「アルケミストライブ」

10月27日（土）の小中合唱祭では、天羽東中体育館に、素晴らしい心のハーモニーを響かせました。

1・2・3年生の「小さな世界」では、大きな手振りと大きな口を開けた合唱で、楽しく歌うことができました。「ミッキーマウス」の合奏も、それぞれの楽器（リコーダー、木琴、小太鼓、カスタネット、トライアングル、ピアノ）の役割をこなし、演奏が終わったあとの笑顔がとても素敵でした。

4・5・6年生の「Take Off～夢に向かって～」は、軽やかなリズムで、息もピッタリ合っており、大きな口を開いた表情豊かな合唱でした。「この地球のどこかで」も、心のこもった伸び伸びとした合唱で、素晴らしいハーモニーを披露しました。

午後は、アルケミストさんのライブでした。「さくら通り」、「あの空」の2曲を1学期から各自がCDで聞いたり、学級で練習したりしながら、この合唱祭に向けてがんばってきました。当日は、中学生と一緒にひとつになって、気持ちを込めて歌うことができました。

子どもたちの、一生懸命に、心を込めた発表は、人を感動させる力があります。感動！感動の小中合唱祭でした。この成果を、富津市小中音楽の集い（11/2）、君津地方小中音楽会（11/14）へとつなげていきます。



<1・2・3年生の発表>



<4・5・6年生の発表>



<アルケミストライブ>



<アルケミストさんと一緒に！>

11月1日(木)、全校朝会・集会が行われました。今回の朝会では学校長より次のような話がありました。

## 「読書週間」 読書をすると、どんな力がつくの？

「〇月〇日は何の日？」とちょっと似ていますが、今回は「10/27～11/9までの期間は何週間でしょうか？」……。

「読書週間」です。みなさんは、本を読むのは好きですか？

実は、先日の小中合唱祭の”鳩”のイラストに書いた校長先生の目標は、「朝4時半に起きること」と、もうひとつが、「読書をする事」です。日によって読書時間は違いますが、少しでも読むようにしています。

今日は、まず「読書週間」の成り立ちをお話します。「読書週間」の運動は、戦後の昭和22年(約70年前)に、本の出版社、書店、図書館、マスコミなどで結成された「読書週間実行委員会」が「読書の力で平和な文化国家をつくろう」という趣旨により、第1回を11月17日から行いました。この運動は国民に大きな影響を与え、翌年からは文化の日(11月3日)を中心とした2週間10月27日～11月9日までの2週間となりました。これ以後、国民の大きなイベントとなり、世界の中でも多くの本を読む国になっています。

では、読書の良さはどんなことでしょうか。読書は、人類が獲得した文化と言われています。読書をする事で、ものを考えるようになりまし。たとえば、読書をすると、文章から人物の気持ちやその状況、情景などを想像することができたり、自分が登場人物だったら、どうしていたかなどと考えることができます。また、「自分を知ることになる。」という人もいます。本を読んでいる自分ともう一人の本の中の自分がいるそうです。つまり、読書の習慣を身につけると「一生の財産」として、様々な力が身につくとされています。

たとえば、「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表現する力」、「知識を得る力」などです。そして、教養が身につく、自分らしい感じ方も身につくのです。読書することは、私たちが生きていくうえできわめて重要です。

11月は、秋の夜長とも言われています。日が沈むのが早くなり、夜が長くなります。季節のよいこの秋の深まりとともに、読書をする時間に充て、楽しく過ごしましょう。「読書の秋」です。秋の夜長、静かな夜に、本を楽しむ時間を設けることは大切なことです。ここ最近、日本の子ども達は、家に帰るとテレビやゲーム、インターネットで過ごす生活が日常的で、普通になっていて、読書のような「文字・活字離れ」が指摘されています。ときには、テレビやゲームにあてる時間を読書にかえてみて、読書を楽しんでみてはどうでしょうか。

校長先生が最近読んでいる本がここにあります。

＜本の提示＞

「本の読み方で学力は決まる」～読書習慣がないと平均以下の成績しかとれません～(東北大学 松崎 泰・榎 浩平著)という、ややショッキングなタイトルですが、小中学生4万人の解析データが実証した「学力と読書の関係」について書かれています。いくつか、抜粋したいと思います。

- ・「勉強2時間以上・読書全くしない。」中学生は、どんなに勉強をがんばっても、読書をしなないとほぼ平均点までしか届かない。勉強に加えて、一日たった30分の読書を取り入れるだけで、成績はアップする。
- ・「勉強2時間・読書全くしない」中学生は、「勉強30分未満・読書1～2時間」とほぼ同じ成績である。
- ・読解力が必要な算数の応用問題の成績アップには、やはり読書が有効である。
- ・小学生よりも中学生の方が読書習慣のない子どもの割合が高い。
- ・小学生のうちにはたくさん勉強させるよりも、たくさん読書をして、幅広い知識や視野を身につけたり、豊かな感受性を養ったほうが学力に結びつくと言えます。
- ・スマホの普及が読書離れの原因である。スマホの使用時間が長いほど、読書習慣のない子どもの割合が高い。
- ・読書や勉強をたくさんがんばって身につけた知識も、しっかりとした睡眠によって記憶の定着を阻まない限りは学力に結びついてこない。
- ・勉強・睡眠・読書のどれか一つの活動だけをがんばっても、学力が向上しないばかりか、かえって他の活動の「削られ効果」が大きく出て、悪影響になってしまう危険性があることがわかってきました。